

県内は本格的な梅雨のシーズンを迎えた。2018年7月の西日本豪雨など、梅雨前線に伴う大雨被害は各地でたびたび起こっているが、防災気象情報が発表されても、避難につながらないケースは多い。専門家は「命を守るため、早めの避難を」と呼びかけている。

気象庁は13年8月以降、数十年に1度の大雨となることが予想された場合に「大雨特別警報」を発表している。国が定める5段階の警戒レベルで最も高い「レベル5」に相当し、県内では西日本豪雨で初めて発令された。既に命の危険が迫っており、直ちに身の安全を確保する行動を取る必要がある。

広島地方気象台の担当者「必ず避難を終えてほしい」とする。タイミングを逃し、避難所への移動が困難な場合、土砂災害などを警戒して上層階に移動する「垂直避難」も選択肢となる。同気象台は今年3月、広

オンラインで何が見える

ご登録はこちらから



読売新聞オンラインならいつでもカラー紙面

大阪本社版朝刊の各地域

島大防災・減災研究センター長の海堀正博特任教授によると、77人が犠牲になった14年8月の広島土砂災害では、対象となる住民の1%未満しか集まらない避難所が多かったという。西日本豪雨でも、犠牲者の出た地域では土砂災害警戒情報が出されており、海堀特任教授は「警戒情報が適切な避難行動に結びつかず、県内で多くの犠牲者が出てしまった」と分析する。

がけ崩れや土石流は、発生場所が家1軒分ずれるだけで、被害が全く異なってくる。平時にハザードマップや地形を確認し、「自分の家は大丈夫か」と考えることが重要で、県は各自で事前に避難計画を決めておく「マイ・タイムライン」(<https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/mytime/>)の作成を呼びかけている。

時代のニーズ
応える裁判所に
笠井・高裁長官抱負

広島高裁の笠井之彦長官(64)が15日、着任の記者会見を開き、「デジタル化を

国産ナッツ瀬戸内で育む

福山市胡町の「徳永製菓」が、菓子の素材として取り扱いが増えてくるクルミやピスタチオなど6種類のナッツを、尾道市瀬戸田町の耕作放棄地で栽培している。ナッツはアメリカやインドからの輸入品がほとんどで、育つ様子を見る機会は少ない。木が花を付け、実を結ぶ様子を観察し、将来の製品加工を目指すという。

(浅田真理)

徳永製菓 尾道の耕作放棄地

徳永製菓は1869年(明治2年)創業の老舗で、「豆徳」の屋号で様々な豆菓子を製造している。ナッツは栄養価が高く、良質な油が含まれるなど「健康的なおやつ」として人気があり、ここ2年間で取り扱いが5倍近くになっているという。

6種栽培 製品加工目指す

社外の研究機関の資料などから、瀬戸内の温暖な気候が生育に適しているとわかり、商品に使っている6種類を一緒に植えるプロジエクトを計画。瀬戸田町の生口島でかんきつ類が植えられていた耕作放棄地約2800平方メートルを借りた。

4月にあった植樹会には、社員の家族ら約40人が参加した。地域の農業委員から「根を切らないように」「水分を吸収しやすいよう大きめの穴を掘って」などのアドバイスを受け、0.3〜1メートルの苗木70本を植えた。ナッツの生育と子どもたちの成長を重ね合わせ、ほしいと「ゆうたのマカダミアナッツ」「トワのアーモンド」などと命名し、プレートも添えた。

肥料の一部に菓子の製造過程で出る割れたナッツや大豆などを再利用する。8代目社長の上迫豊さん(55)は「立派なナッツが実るまでには10〜15年かかる。創業200年を見据えた取り組みとして挑戦していきたい」と話している。

福山市美術展 3年ぶり 前期は洋画や彫刻展示



3年ぶりに開催された展覧会で、作品に見入る来場者(福山市で)

第69回福山市美術展覧会が15日、福山市西町のふくやま美術館、ふくやま書道美術館で始まった。コロナ禍で2020、21年は中止されたため3年ぶりの開催で、会場は多くの人でにぎわった。前期は19日まで、後期は22〜26日。

780点の応募があり、うち582作品が展示される。招待作家らの作品172点も並ぶ。前期は洋画や彫刻、書、写真を展示。洋画は風景や人物など身近な対象を描いた作品や抽象画があり、美術教室の友人と

県内41人感染

県などは15日、新型コロナウイルスの感染者421人を新たに確認したと発表した。県内の感染者は延べ16万3975人となった。

市町別感染者数

広島市	232
福山市	50
呉市	46
東広島市	41
廿日市市	12
海田町	10
府中町	9
三原市	6
尾道市	4
江田島市	3
大竹市	2
府中市	1
三次市	1
安芸高田市	1
熊野町	1
坂町	1
北広島町	1

瀬戸内海を望むナッツの農園(尾道市で)



苗木を植え付ける参加者ら(4月、徳永製菓提供)